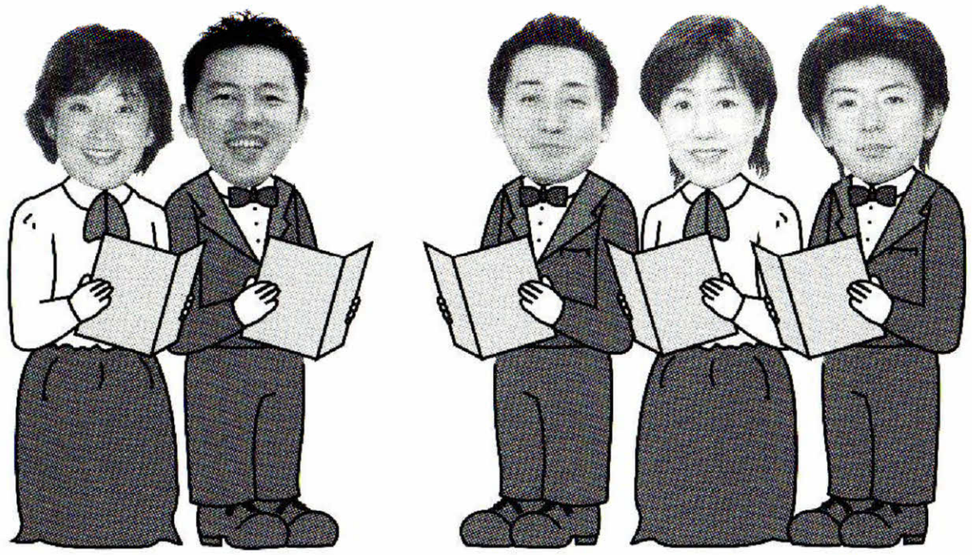
RKKがはじまるよ。
熊本放送開局50周年

息の合ったハーモニーで
熊本の「今」をお届けします。



長船なお美　木村和也　佐々木慎介　福島絵美　山崎雄樹

RKKワイド
夕方いちばん
RKKテレビ
毎週 月～金 午後4時45分 放送！

ニュースの編
くまもと
RKKテレビ
毎週 月～金 午後6時20分 放送！

RKK
熊本放送
■URL http://www.rkk.co.jp
■i-mode、Vodafone live!からもアクセス可能

第45回 熊本県芸術祭参加

ベートーヴェン

第九

第21回

平成15年12月21日(日)午後6時15分
熊本県立劇場コンサートホール
主催／熊本県民第九の会・熊本県文化協会
助成／(財)熊本県立劇場

熊本県知事

潮　谷　義　子

祝　　辞

第21回ベートーヴェン「第九」演奏会の開催を心からお慶び申し上げます。

昭和57年の熊本県立劇場開館を契機に始められたこの演奏会は、熊本の年末を彩る恒例行事としてすっかり定着し、多くの県民の方々を魅了し続けています。

今回の演奏会は、指揮者に、5年ぶりとなる井崎正浩先生、そして我が国を代表する4人の独唱者をお迎えし、熊本交響楽団による約100人のオーケストラ、そして、県内から公募された300人を超える熊本県民第九の会合唱団により、壮大に謳い上げられます。

この恒例の演奏会に参加するため、仕事や学業の合間をぬって限られた時間のなか練習を重ね、何度もこの演奏会に参加されている団員の方々も多いと伺い、この「第九」に対する皆様の情熱と熊本の合唱の裾野の広がりを大変うれしく思っております。

本日舞台に立たれる皆様方におかれましては、日頃の練習の成果を存分に発揮され、また会場にお越しの皆様方も、共にコンサートホール一杯に歓喜あふれる素晴らしいハーモニーを響きわたらせていただきたいと思います。皆様方が新たな感動と希望を持って新しい年をお迎えになることを願っております。

最後に、本日の演奏会の御盛会と皆様方のますますの御活躍、御発展を心よりお祈りいたします。

熊本県立劇場館長

川　本　雄　三

歴史を共に歩んで

県民第九の会の第21回公演をお祝い申し上げます。

年末のこの時期は、全国各地で「第九」の演奏会が相次いで行われます。恐らく12月だけで100回を超えるだろうともいわれています。そんななかで熊本の「第九」は、第1回が熊本県立劇場の開場記念事業として行われて以来、すでに21回目を数える立派な歴史を残してきているわけです。歩みを共にしてきた県立劇場としても、21年という歴史には感慨を覚えざるを得ません。

熊本の「第九」の特色の一つは、約300人もの合唱団が、いずれも公募による参加者で あり、そのうちの数十人は毎年、新しいメンバーに入れ替わることだと聞いています。とすれば、これまで千数百もの人たちが、熊本交響楽団やプロ歌手の人たちと一緒に「合唱」の創造に参加してきたわけです。そういう参加と創造の楽しさを体験した人たちが芸術文化の愛好者・支持者として県下の方々におられるということは、地域文化の発展のためにも、まことに心強いことだと考えます。

県民第九の会の今回の公演も大成功を納めるよう祈っております。

熊本県文化協会会長

安　永　蕗　子

劇的な第九のために

今年もコーラル・シンフォニー第九の夜が迫りました。毎年第九を聞くことで、たしかな平安を感じるのはいつもが平和ではないという感情の中にいるのかもしれません。それは何も日本の冬に限ったことではなく、世界の不安が第九の響きを待ちかねている気がします。ことにシラーの詩を下敷きにした歓喜の歌の声がひびくとき、まるでベートーヴェンではないようなこまやかなことばがひびきます。〈フーガ〉から〈コーダ〉へ、女声も混ってのコーラルシンフォニー、とても心はずむ一夜です。そうした歓喜があるのにこの一つの遊星に平和が完全に還ってこないのが残念です。第九の演奏は今後も必ずつづけて欲しい時間です。全き平和が地上に来るまで力づよく歌って欲しいと思います。

音楽は文学や絵画よりもさらに芸術性が高いのは、言葉も、絵もない所から芸の高さが生まれるものと思います。しかし後半に至って、言語をもって劇的な歓喜の境地へつれこんでゆく技巧はさすがだと思います。音楽にのせられて人の言葉が生き生きと動く、完然な表現のために、楽器と声がひとつになる、日本も奈良時代から和琴と笛に唱歌がまじって一場の音楽の場となります。そのことも思いながら毎年たのしんでいます。今年もたのしみな冬の第九です。

熊本県民第九の会実行委員長

草　刈　秀　士

ご　挨　拶

ご来場の皆様　本日は年末のご多忙の折りにもかかわらず、私どもの第九の演奏会にお越し下さいましてありがとうございます。

世界ではイラクを始め各地で、痛ましいテロや事件が頻発していますが、終止符はなかなか見つかりそうにありません。

人はなぜ殺し合うのでしょうか？人種の違い宗教の違い、イデオロギーの違い等諸々の要因があるにせよ、もっとお互いの意見を尊重し、共存できる道が見つからないものでしょうか？

第九の四楽章「おお友よこの調べではなくさらに快い、さらに喜びに満ちた調べを、共に歌おう」とバリトンソロが呼びかけます。そして「すべての者らは同胞となる」ベートーヴェンもシラーの世界平和を願う詩に感動し作曲したのではないでしょうか？プログラムに紹介の詩を読んで演奏をお聞き頂ければ幸いです。

8月から12回の練習を重ね本日を迎えました。「互いに手を取り合おう、億万の人々よ！この口づけを全世界にあたえよう！」、私共も世界平和を願って一生懸命演奏を致します。

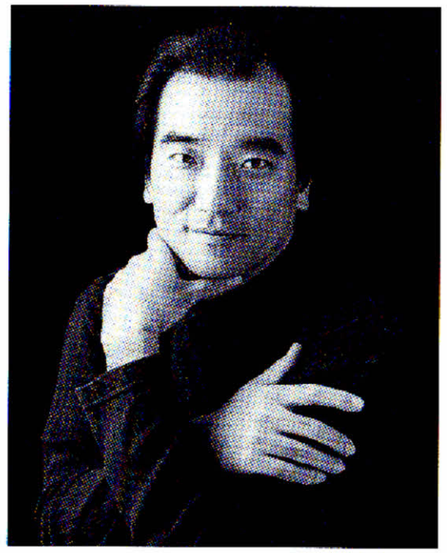
末尾ですが県文化協会・県立劇場はじめ多くの皆様方のご協力にお礼を申し上げます。

出　演
PERFORMANCE

指　揮		井　﨑　正　浩
独　唱	ソプラノ	佐々木　典　子
	メゾ・ソプラノ	大　林　智　子
	テノール	米　澤　　傑
	バリトン	松　本　　進
合　唱		熊本県民第九の会合唱団
	合唱指揮	林　原　隆　治
		工　藤　勇　壹
		松　岡　　聡
	ピアノ	古　閑　恵　美
		真　田　眞　澄
		浜　田　志　貴
		林　原　ゆ　り
管弦楽		熊　本　交　響　楽　団

平成14年12月22日(日)《第20回熊本県民第九の会演奏会(指揮＝松尾葉子)》から

指揮者のプロフィール
CONDUCTOR ; PROFILE



指揮　井　﨑　正　浩（いざきまさひろ・Masahiro IZAKI）

1995年5月、第8回ブダペスト国際指揮者コンクールで優勝。コンクール中の演奏をハンガリー国立オペレッタ劇場総裁に認められ、同年11月同劇場でレハール作曲《メリー・ウィドウ》を指揮、センセーショナルなデビューを飾る。翌年1月に同劇場初来日公演にも指揮者の一人として同行し、「音楽の友」誌コンサートベストテン'96に選ばれるなど高く評価された。

ハンガリーにおいてはこれまでにハンガリー国立響等の主要オーケストラを次々に指揮し、1998年9月からはソムバトヘイ市・サヴァリア交響楽団の芸術監督兼常任指揮者に就任し、多彩な活動を行った。また同年10月にはハンガリー国立歌劇場へデビュー（プッチーニ／歌劇「ラ・ボエーム」）を飾って大成功を収め、オペラ指揮者としても地位を確立する一方、2000年1月には外国人として初めてブダペスト・ニューイヤーコンサートを指揮するなど、同国ではいよいよその名声を確立しつつある。同国の"5つの竪琴国際音楽祭"委員会からは、才能と実績あるアーティストに贈られる「リラ大賞」を授与された。

日本では、1996年1月、東京シティ・フィルのニューイヤー・コンサートのデビューを皮切りに、読売日響、日フィル、東フィル、九響等の主要オーケストラに次々と客演。同時にオペラやオペレッタ公演にも手腕を発揮し、これまで新国立劇場（プッチーニ／歌劇「トスカ」）、文化庁主催オペラガラ、国際オペラコンクール in Shizuoka、日本オペレッタ協会（「こうもり」「微笑みの国」）など活躍の場を広げ、その手腕は高く評価されている一方、日本フィルハーモニー協会合唱団の常任指揮者を務めるなど幅広い活動を行っている。「題名のない音楽会」（テレビ朝日）、「深夜の音楽会」（日本テレビ）などテレビへの出演も多い。他に、尚美学園大学・非常勤講師を務めている。

熊本交響楽団とはこれまでに定期演奏会の指揮の他、アメリカ演奏旅行（'97）、ドイツ・ハンガリー旅行（'02）など共演も多く、第九演奏会の指揮は今回が2回目となる。

ホームページ　http://www.ne.jp/asahi/izaki-masahiro/online

佐々木　典　子（ささき　のりこ）

ソプラノ

武蔵野音楽大学卒業。
その後、ザルツブルグのモーツァルテウムに留学。同大学オペラ科を首席で修了。
84年ウィーン国立歌劇場オペラ研修所に所属。
86年ウィーン国立歌劇場にソリストとして本契約。
90年４月熊本市女性賞を授与される。
2000年12月　第２回ホテルオークラ音楽賞受賞。
　ザルツブルグ「若人の情景」の「ドン・ジョヴァンニ」（ガッツァニーガ作曲）にドンナ・アンナとマトゥリーナ役で出演。ザルツブルグ宮廷歌劇場の「ジャンニ・スキッキ」にラウレッタ役で出演。ヘルシンキ、ストックホルム、オスロ、パリ、フランクフルト等で現代曲コンサートに出演。オーストリア、ドイツなどで、シュミット作曲「七つの封印をした本」、オネガー作曲「死刑台のジャンヌ・ダルク」、マーラー作曲「交響曲第４番」、「子供の不思議な角笛」等の演奏会に出演。
　ウィーン国立歌劇場でのオペラ出演演目は多彩で、「影なき女」「パルジファル」「トロヴァトーレ」「フィガロの結婚」「リゴレット」「タンホイザー」「ヴェルテル」「ルサルカ」「死の都」（コルンゴールド作曲）「ルイザ・ミラー」「ポリス・ゴドノフ」「バラの騎士」「ファウスト」「アルジェのイタリア女」「ナクソス島のアリアドネ」「愛の妙薬」「アイーダ」「エレクトラ」等多数ある。
　フォルクスオーパーの「ドン・ジョヴァンニ」ツェルリーナ役で出演。86年、89年ウィーン国立歌劇場日本公演出演。87年、88年ザルツブルク音楽祭「モーゼとアロン」、89年「エレクトラ」、92年に「影なき女」出演。89年日本公演ガラコンサート（クラウディオ・アバド指揮）、97年二期会公演「フィガロの結婚」に伯爵夫人で出演。99年には新国立劇場「こうもり」でロザリンデをつとめ、役にふさわしい美貌と歌唱で好評を博す。最近では2000年２月二期会公演「魔笛」パミーナ役、同年８月には「真夏の夜の夢」ヘレナ役を務め、また2001年２月では二期会創立50年記念公演「こうもり」の得意のロザリンデ役で出演する等、オペラ、オペレッタの主役として欠くことの出来ない、第一人者としての地位を確立している。2002年は二期会「ニュルンベルクのマイスタージンガー」にエヴァ役で、2003年７月二期会「バラの騎士」元帥夫人で出演。大好評を博す。その他、コンサート活動ではバッハ「ヨハネ受難曲」、モーツァルト「レクイエム」、ロッシーニ「スタバト・マーテル」、ワーグナー「ワルキューレ」（演奏会形式）がある。レコードは「マダム・バタフライ」、「影なき女」、「エレクトラ」その他現代曲多数を録音している。
　武蔵野音楽大学・東京芸術大学講師、二期会会員

大　林　智　子（おおばやし　ともこ）

メゾ・ソプラノ

東京芸術大学卒業。同大学院修了。二期会オペラ・スタジオ修了時に優秀賞受賞。
1986年、第23回日伊声楽コンコルソ入賞。
1988年、第７回新人音楽コンクール第３位、平成４年文化庁芸術インターンシップ研修員。
　二期会オペラ・スタジオ在籍中に二期会公演「ワルキューレ」グリムゲルデ役でデビューを果たし、日生劇場オペラ教室「魔笛」の第三の侍女等に出演。1989年、二期会公演「ヘンゼルとグレーテル」のヘンゼル役に抜擢され、好評を博し、以来当り役として、文化庁子供芸術劇場等で回を重ねている。
　1991年、二期会創立40周年記念公演「神々の黄昏」（邦人初演）でフロスヒルデを歌い、より一層高い評価を得る。
　その他の出演オペラは、プッチーニ「修道女アンジェリカ」修道女長、プロコフィエフ「３つのオレンジへの恋」クラリーチェ、メノッティ「チップと犬」チップ、同「助けて、助けて、宇宙人がやって来る」ニューカーク等がある。
　コンサート活動でも都響定期「ニューベルングの指環」（コンサート形式）、「聖セバスチャンの殉教」、ワーグナー・シリーズ「パルジファル」、「グロリア・ミサ」のソリストの他、数々のオーケストラで「第九」、モーツァルト「レクイエム」、ロッシーニ「小荘厳ミサ」、ブルックナー「テ・デウム」、バッハ「ロ短調ミサ」、「マニフィカート」、ベートーヴェン「ハ短調ミサ」、ヘンデル「メサイヤ」、メンデルスゾーン「真夏の夜の夢」等ノアルト・ソロを務める。
　1996年12月には、ニューヨークのカーネギーホールにて「第九」のアルト・ソロを務め、好評を博した。
　1998年には、新日フィルとオペレッタ「ボッカチオ」、「ベリコール」、「ブン大将」（コンサート形式）で共演し、新境地を開拓した。
　最近では、2001年３月に、新国立劇場でのワーグナー「ラインの黄金」でフロスヒルデを、2002年３月には同劇場でワーグナー「ワルキューレ」でヴァルトラウテを、欧米から招聘した一流ワーグナー歌手たちに交じって、ひけをとらずに演唱し、好評を得た。
　2003年は６月にシャルル・デュトア指揮によるＮ響定期公演「エレクトラ」（演奏会形式）で第二の侍女、９月には二期会公演の「蝶々夫人」でスズキに出演など精力的に活動している。又、2004年の４月には新国立劇場でのワーグナー「神々の黄昏」のフロスヒルデの出演が決まっている。
二期会会員

米　澤　　傑（よねざわ　すぐる）

テノール

　鹿児島大学医学部卒業。現在、同大学教授（病理学）。日伊声楽コンコルソ入選、太陽コンコルソ・カンツォーネ・イタリアーナ優勝、日本クラシック音楽コンクール第１位グランプリ受賞。「蝶々夫人」や「カルメン」等オペラの主役、NHK教育テレビ「第九をうたおう」（指揮・井上道義氏）のソリスト、サントリーホール、オーチャードホール等での新日本フィル「第九」をはじめ、全国各地でのベートーヴェン「第九」、ヘンデル「メサイア」、プッチーニ「グローリアミサ」、ロッシーニ「スタバト・マーテル」等多数の演奏会でのソリストを務め、井上道義、大友直人、若杉弘、小林研一郎、トーマス・ザンデルリンク、松尾葉子等の著名な指揮者、ならびに、日本フィル、読売日響、京都市交響楽団、大阪シンフォニカー、札幌交響楽団等の主要オーケストラと共演、また、世界的ソプラノ歌手の松本美和子氏ともしばしば共演、大好評を博し、イタリア、米国、韓国でのコンサートでも大成功を収めている。93年発行のＣＤは巨匠ロリン・マゼール氏に絶賛され、また、96年にはイタリア全土に放送された。2001年に出演したNHK-FM「名曲リサイタル」には全国から大きな賞賛が寄せられ、霧島国際音楽ホールでのリサイタルでは関東や関西から鹿児島に観客が訪れるという「逆現象」をつくりだした。2002年１月には、ルーマニアでの「日本・ルーマニア国交100周年記念ニューイヤーコンサート」で、尾崎晋也　氏指揮・ルーマニア国立トゥルグ・ムレシュ交響楽団と共演、その好演は再度の共演を依頼されるほど現地での話題となり、地元音楽誌からも、「これまで、この劇場で歌ったテノール歌手の中で最高」との絶賛を博した。2002年10月、２作目のＣＤ「米澤傑テノールの魅力（ＳＵＧＵＲＵ YONEZAWA～Brilliant Tenor～）」を発行。2003年３月の大阪「いずみホール」での佐藤康子氏とのジョイントリサイタルでは総立ちとなった聴衆から拍手喝采を浴び、６月には井上道義氏指揮、ヴェルディ「レクイエム」（札幌交響楽団、中丸三千繪氏等との共演）のソリストを務め高い評価を得、９月の神戸「松方ホール」ではトロヴァトーレ「見よ恐ろしい炎」等を歌い「世界中でもいまこれだけのスピントテノールはいない」と絶賛された。板橋勝、池端ミチ子、ジェームズ・シュワバッカー、松本美和子の各氏に師事。平成10年度鹿児島県芸術文化奨励賞受賞。日伊音楽協会会員。医学博士。

松　本　　進（まつもと　すすむ）

バリトン

国立音楽大学声楽科卒業。同大学院オペラ科終了。
野崎靖智・平野忠彦・中山悌一の各師に師事。
　1981年、二期会オペラ「ニュルンベルグのマイスタージンガー」のハンスザックス役に急遽代役として出演し、彗星のごとくデビュー。この長大な作品に対し、新人とは思えぬ堂々とした舞台を務め一躍注目を集めた。この業績によって、第９回「ウィンナワルドオペラ賞（ジローオペラ賞）」を受賞。1982年より、文化庁在外研修員として、２年間ウィーンに留学。リリー・コラー女史に師事。1983年一時帰国し、日生劇場20周年記念公演で「魔笛」の弁者を歌う。1984年に帰国した後は、「魔笛」のパパゲーノ、「ジャンニ・スキッキ」のタイトルロールを始め、「フィガロの結婚」「コシ・ファン・トゥッテ」「セヴィリアの理髪師」「愛の妙薬」「椿姫」「アルジェのイタリア女」「蝶々夫人」「リゴレット」「ファルスタッフ」「タンホイザー」ブリテンの「真夏の夜の夢」「パリアッチ」等に加え、「人買い太郎兵衛」「黄金の国」「ちゃんちき」「金閣寺」「モモ」「罪と罰」「沈黙」といった邦人のオペラにも多数出演。いずれも好評を博し、舞台には無くてはならない存在になっている。
　1999年８月「エディンバラ国際フェスティバル」の「トゥーランドット」では絶賛された。
　また、コンサートにおいても「第９」を始め「カルミナ・ブラーナ」「メサイア」「エリア」「天地創造」「戦争レクイエム」等のソリストとして幅広く活躍している。
　2001年１月（東京）・３月（ソウル）で公演の日韓共催オペラ「春・春・春」に出演し高い評価を受ける。
　2002年10月（北京）小澤征爾指揮・日中国交正常化記念オペラ「蝶々夫人」に出演。
　2003年１月新国立劇場「光」・２月二期会「カルメン」に出演。
二期会会員・日本演奏連盟会員・東京学芸大学非常勤講師。

プログラム
PROGRAM

1．喜歌劇「こうもり」序曲
J.シュトラウス

2．交響曲第９番 二短調 作品125「合唱付き」
ベートーヴェン

第１楽章　Allegro ma non troppo, un poco maestoso
第２楽章　Molto vivace
第３楽章　Adagio molto e cantabile
第４楽章　FINALE

熊本県民第九の会
MESSAGE

熊本県民第九の会は昭和57年熊本県立劇場の落成を祝い柿落しの催し物が幾つかありましたがその中の一つであります。

この柿落しの第九演奏会を開催するにあたっては実行委員会をつくり県内の合唱愛好者に広く呼びかけ合唱団を結成しオーケストラは熊本交響楽団が担当しました。

指揮者に故山田一雄、ソリストは新圭子、故木村宏子、伊豆野修、高橋修一の諸先生を招き県立劇場で初めてのベートーヴェン第九の演奏会は、満場の聴衆そして演奏する者に大きな感動を与えました。この様な演奏会を一度で終らせることは!! 各方面から今後も続けてはとの声が多く県立劇場の自主文化事業として毎年年末に演奏する様になり今年で21回を迎えます。現在は熊本県民第九の会・熊本県文化協会が主催し熊本文化の掉尾を飾る催し物として定着しつつあります。この第九を継続発展させるためには多くの方々に参加して頂き多くの方々に聴いて頂くことが不可欠であります。どうか皆さんも一度第九を経験されては如何でしょうか!! きっと感動の瞬間が待っていると思います。第九の会では毎年6月10日～7月20日の間合唱団員の募集を行ないます。募集用紙は県立劇場、女性センター、西野楽器と県内の主な文化施設で募集期間中受取る事が出来ます。重ねて皆さん多くの方々のご参加とご支援ご来場をお願い致します。

「熊本県民第九の会」実行委員会

顧問	下田宰城	委員	神田一伸
			草刈秀克
委員長	草刈秀士		坂口幸男
			田北洋康
			黒菖原　潔
			林原隆治
			藤本幸弘
			松岡　聡
			本山　洋
			山﨑崇伸

歌　詞　対　訳
PARALLEL VERSION

■ シラー《歓喜に寄す》

対訳＝大宮　真琴

O Freunde, nicht diese Töne ! sondern
lasst uns angenehmere anstimmen, und
freudenvollere.

バリトン独唱
おお、友よ、この調べではなく、
さらに快い、さらに喜びに満ちた調べを
ともに歌おう！

Freude, schöner Götterfunken,
Tochter aus Elysium,
Wir betreten feuertrunken,
Himmlische, dein Heiligtum !
Deine Zauber binden wieder,
Was die Mode streng geteilt ;
Alle Menschen werden Brüder,
Wo dein sanfter Flügel weilt,

バリトン独唱・合唱
歓びよ、神々のうるわしい輝きよ！
楽園の娘らよ！
われらみな、感動に酔い、
天の高みの神殿に踏み入ろう！
この世に厳しく引き離された者らを、
神秘なる御身の力は、再び結び合わせる。
御身の優しい翼の憩うところ、
すべての者らは、同朋（はらから）となる。

Wem der grosse Wurf gelungen,
Eines Freundes Freund zu sein,
Wer ein holdes Weib errungen,
Mische seinen Jubel ein !
Ja, wer auch nur eine Seele
Sein nennt auf dem Erdenrund !
Und wer's nie gekonnt, der stehle
Weinend sich aus diesem Bund !

四重唱・合唱
大いなる天の賜物をうけた者らよ、
真空の友情をかち得た者らよ、
女の優しい愛を得た者らよ、
歓びの歌を、ともに歌え！
しかり、たとえ、ただ一人の魂でさえも
地上の友と呼べる者を持つことができるならば！
だが、それさえ持つことのできなかった者は、
涙しつつ、足音をしのばせ、立ち去るがよい！

Freude trinken alle Wesen
An den Brüsten der Natur ;
Alle Guten, alle Bösen
Folgen ihrer Rosenspur.
Küsse gab sie uns und Reben,
Einen Freund, geprüft im Tod ;
Wollust ward dem Wurm gegeben,
Und der Cherub steht vor Gott.

四重唱・合唱
すべてこの世に在るものら、
自然の胸から歓びを飲み、
すべての善人も、すべての悪人も、
喜びの薔薇の小径を行く。
歓びは、われらに、口づけと葡萄酒と、
そして、死さえも奪い去ることのできぬ友とをあたえ、
虫けらにさえも楽しみがあたえられ、
天使ケルビムは、神の御前立つ。

Froh, wie seine Sonnen fliegen
Durch des Himmels prächt'gen Plan,
Laufet, Brüder, eure Bahn,
Freudig, wie ein Held zum Siegen.

テノール独唱・男声合唱
歓びよ、歓びよ、神の太陽たちが、
壮大な天の軌道をたのしく飛びかうように、
同朋（はらから）よ、おのれの道をすすめ、
歓びに満ちて、英雄が勝利の道をすすむがごとくに。

Seid umschlungen, Millionen !
Diesen Kuss der ganzen Welt !
Brüder ! über'm Sternenzelt
Muss ein lieber Vater wohnen.
Ihr stürzt nieder, Millionen ?
Ahnest du den Schöpfer, Welt ?
Such' ihn überm Sternenzelt !
Über Sternen muss er wohnen.

合　唱
たがいに手をとり合おう、億万の人々よ！
この口づけを、全世界にあたえよう！
同朋（はらから）よ、星のかなたには、
愛する一人の御父が住み給うのだ。
ひれ伏して祈るか？億万の人々よ。
創り主を心に感ずるか？世界の民よ。
星空のかなたに、王をさがし求めよう！
星たちのうえに、主は住み給うのだ！

1．喜歌劇「こうもり」序曲

J.シュトラウス

オペレッタ（喜歌劇）の起源については、種々の観点から様々な説があるが、このジャンルの基本的なかたちを一応完成させたのは、「天国と地獄」の作曲者オッフェンバックと見なす主張が、ほとんど異説の存在を許さないほどの定説となっている。ワルツ王ヨハン・シュトラウス（Johann, Strauss 1825～1899）が、50歳近くにもなってオペレッタの分野にまでその創作の筆をおしすすめたのは、ウィーンを訪れたオッフェンバックの勧めによるものと言われる。シュトラウスのオペレッタ作品は16曲を数えるが、そのうち最も代表的な傑作は、この「こうもり」と「ジプシー男爵」の2作である。オペラ劇場では元来軽い扱いをされるオペレッタであるのもかかわらず、世界の一流歌劇場の重要なレパートリーに数えられていることからも、これらの作品が、軽薄に走りがりなオペレッタの中にあって、気品に満ちた芸術的香気を保持していることが、十分窺われよう。

また、全幕を一貫する構成的な統一感が作品全体をひきしめている功績も見逃すわけにはいくまい。

シュトラウスは、ヒーツィングの別荘で1873年の暮れ、42日間という短い期間で一気に作曲を完成させ、見事な内容のオペレッタにしたてたのである。

序曲は、全幕の間かせどころを連ねた、いわゆる接続曲（ポプリ）風の親しみやすい序曲で、しばしば演奏会の曲目にとりあげられる作品である。

元気よくオーケストラの総奏で始まり、やがてオーボエがやわらかな旋律を歌う。再び冒頭の形が現れ、ついで第二幕終曲にでる時の鐘が6つ鳴らされると、新しい旋律が顔をのぞかせる。ワルツのテンポになり、第二幕終曲の舞踏の場面で一同によって踊られるワルツと合唱によって歌われるワルツが華やかに曲を盛り上げる。曲は一転してオーボエ独奏で、第一幕の三重唱のロザリンデの嘆きの旋律が歌われ、静かな雰囲気が続く。やがて弦によってポルカ風の音形が奏されると、これまでの旋律がそれぞれに若干の変化を見せながら再現し、ワルツの華麗に彩りをそえ、一層にぎやかさを増し、コーダではいやがうえにも活気づき、華々しく、またうきうきした表情のうちに序曲が終る。

2．交響曲第９番ニ短調作品125「合唱付き」

ベートーヴェン

ベートーヴェンは、一つ一つが内容と性格を異にする八つの交響曲を書き終えたのち、生涯の最後に九番目の交響曲に書手した。

1793年、ボンのフィッツェニヒは、シラー夫人の手紙で「彼は歓喜をも、しかも各節残らず作曲するでしょう…」と告げていることにより、ベートーヴェンは生地ボンにいたときから、すでにシラーの詩「歓喜に寄す」に作曲したいと思っていたことがわかる。

1822年に、ロンドンのフィルハーモニー協会は、ベートーヴェンに新しい交響曲の作曲を依頼してきた。このことで、今までベートーヴェンの頭の中に、うかんだり、消えたりしてい合唱付きの交響曲の構想が、いっきよに実現することになった。そして1823年から24年にかけて、この巨大な交響曲が完成した。シラーの「歓喜に寄す」に作曲する意図をいだいて、完成するまでに、じつに30数年にわたっていることになる。

この曲は、ベートーヴェンの音楽における技法と精神の最も円熟した時代の作品であって、その内容が雄大なる精神と、大胆にして洗練され、全く独創に富んだもので、いく多の目新しい技法がそこに示され、その楽想は当時の常識を全く超えたものであった。四人の独唱者や大規模な合唱団を用いたり、終曲の初めにおいて、前の三つの楽章を回想したりなどはその一例である。

初演は1824年5月7日夜、ウィーンのケルントナートア劇場で行われた。

ベートーヴェンの聴力がかなり衰えていたことは、この曲の初演の際に、指揮者を二人おいたことでもわかる。ベートーヴェンは正指揮者のウムラウフの隣りにあって、実際の演奏とは、くい違ったテンポや表情で空しく空間に弧を描くのみであったという。

「第九」の演奏は練習不足ではあったが、聴衆には偉大な感銘を与え、各楽章の終わりには万雷の如き拍手が起った。特に終曲が終ったとき、成功は決定的となった。満堂の聴衆は感激して総立ちとなり喝采を浴びせた。しかし、耳の聞こえないベートーヴェンは聴衆を背にしてボンヤリしていた。見かねたアルトの独唱者ウンガーがかれの袖をひいて聴衆の方を向けたので、かれは初めてこの曲が非常な感銘を与えたことを知り、礼をしたという。聴衆はこの劇的な悲愴な光景に感激し、さらに拍手を続けて、作曲者を五度も答礼のためにステージに出させた。答礼は三回というのが皇帝に対する礼儀なので、警官があわてて聴衆を制したという。

〔第一楽章〕 Allegro ma non troppo, un poco maestoso

「第九」の規模の雄大さと、劇的な性格は、はやくもこの楽章でも示されている。導入は、天地の混沌を想わせる茫漠とした空5度（第三音がない）の響きで始まる。やがてこの響きのなかから鋭いリズム・モティーフが生起する。このモティーフが圧縮され、第１主題が澎湃（ほうはい）として沸き起こる巨大な魂のごとく粛然（しようぜん）たる姿をあらわす。ソナタ形式は、いまだかつて、このような主題を経験したことがなかったのである。

第２主題は第１主題と異なって、楽しい性格のものである。これにつづく部分も、大体においてこの気持をもち、ときどき第１主題の部分をまじえながら展開部へとつづく。そしてその劇的壮大さは再現部における第１主題へ壮烈な導入において、クライマックスに達する。

ワーグナーによると「我々と地上の幸福との間をさえぎる敵意ある暴力の圧迫に対して、喜びをかち得ようと努める魂の戦い、極めて壮大な意識で把握された戦いが、この第一楽章の基礎をなしているように思える」である。

〔第二楽章〕 Molto vivace

およそベートーヴェンの書いたスケルツォのなかで、最も大規模なものである。鋭い付点リズムを含む、むしろ単純なスケルツォ楽想が、およそ考えうる限りのすべての展開を行う。トリオの主題はあきらかに第一楽章のエピソードから受けつがれたものであり、終楽章の「歓びの調べ」への橋わたしの役を果たすことにもなるのである。

ワーグナーは「激しい喜びが、この第二楽章をはじめのリズムで直ちに我々をとらえる。新しい世界の中に我々は入り、そこで陶酔や麻酔へと駆りたてられるからである…」と言っている。

〔第三楽章〕 Adagio molto e cantabile

賛歌ふうの主題旋律と希望と浄化を象徴するような明るく美しい第２主題は、この両主題にもとづく由由な変奏形式をとっており、叙情的な旋律、色彩的な和声は、宗教的な敬虔さをもって瞑想的に展開され、情熱も闘争もない平和な幸福感が描き出される。

この交響曲の中で一つの頂点であり、ワーグナーは「なんと清らかに天国のようななだめ方でそれ等の音は反抗と絶望におののいた魂のはげしい促しを、やわらかい憂鬱（ゆううつ）な感覚へと溶けさせていくことか、思い出がつとに享受したきわめて純粋な幸福への思い出が目ざめるかのように思われる…」と言っている。

〔第四楽章〕 FINALE

第１呈示部＝まず管打楽器によるあわただしい楽想が奏される。これに対し低弦がレシタティフでこたえる。それから、前の三つの楽章がそれぞれ回想され、低弦のレシタティフによって否定されていく。そしてついに、一つの歓ばしい旋律が現れる。この主題は初めに低弦によって歌われ、くり返しながら全合奏に至る。

第２呈示部＝この楽章の初めの、あわただしい楽想がもどってくる。やがてバリトン独唱が、力強く歌いはじめる。ついで合唱がそれにつづく、やがて他の独唱も加わり、ひとつのクライマックスをつくる。曲想一転して行進曲となり、テノール独唱が歌いはじめる。そして男声合唱が、力強く歌いくわわる。

再現部＝やがて曲はふたたび「歓喜の調べ」がもどり、合唱が重々しく新しい主題をうたう。やがてこの新しい主題と「歓喜の調べ」とが組み合わされて、壮麗な二重フーガがくりひろげられ、全曲中の一つのクライマックスを形づくる。

コーダ＝曲想が一変する。主題旋律の新しい変奏に入り、四人の独唱者と合唱が変化のかぎりをつくして、交互に歌いすすめる。

圧倒的な合唱コーダとなり、合唱の最後は、マエストーソとなるが、管弦楽だけが残り、圧倒的な終結を一気に終る。

「熊本県民第九の会」合唱団 CHORUS

インスペクター　草刈　秀士

Soprano
〈ソプラノ〉

太田　有香
黒川　昌美
木場　よし子
堺　敬子
富田　緑
平野　千春
平井　正子
吉田　知世
田中　典子
三嶋　尚子
藤下　美知子
梶原　紀久子
吉良　久子
小島　淑子
沢田　和代
高森　さつき
近田　綾子
中村　和子
東　恵子
宮崎　裕子
宮本　はつみ
宮本　弘子
村田　久美子
村田　さおり
山崎　はるみ
山本　美穂子
大溝　逸子
岡村　美智子
草野　信子
菊池　安季子
松村　紀子
㉑相川　久仁子
池田　三千代
⑱稲岡　福子
上村　貴世
岡沢　康子
小田　誠子
⑫川田　幸子
⑩川部　恵子
⑭工藤　たみ子
工藤　ひとみ
⑩蔵元　由美子
⑲佐藤　淑子
島野　苓子
杉本　由美子
髙田　碩子
武田　尚子
建山　真理子
田上　みゆき
津留　恭子
寺澤　孝子
⑪中島　優美子
⑲長谷川　茉る子
服部　敬子
服部　メイ子
⑱馬場　圭子
⑬間　優子
藤田　悦子
前田　真弓
⑱前田　弥生
松川　千晶
⑩松門寺　阿古
⑱宮本　恵子
矢住　ハツノ
⑯横田　味詠子
⑪笠　智子
⑩谷口　登紀子
中村　えみ子
中本　幸子
隈部　文
村田　逸子

Alto
〈アルト〉

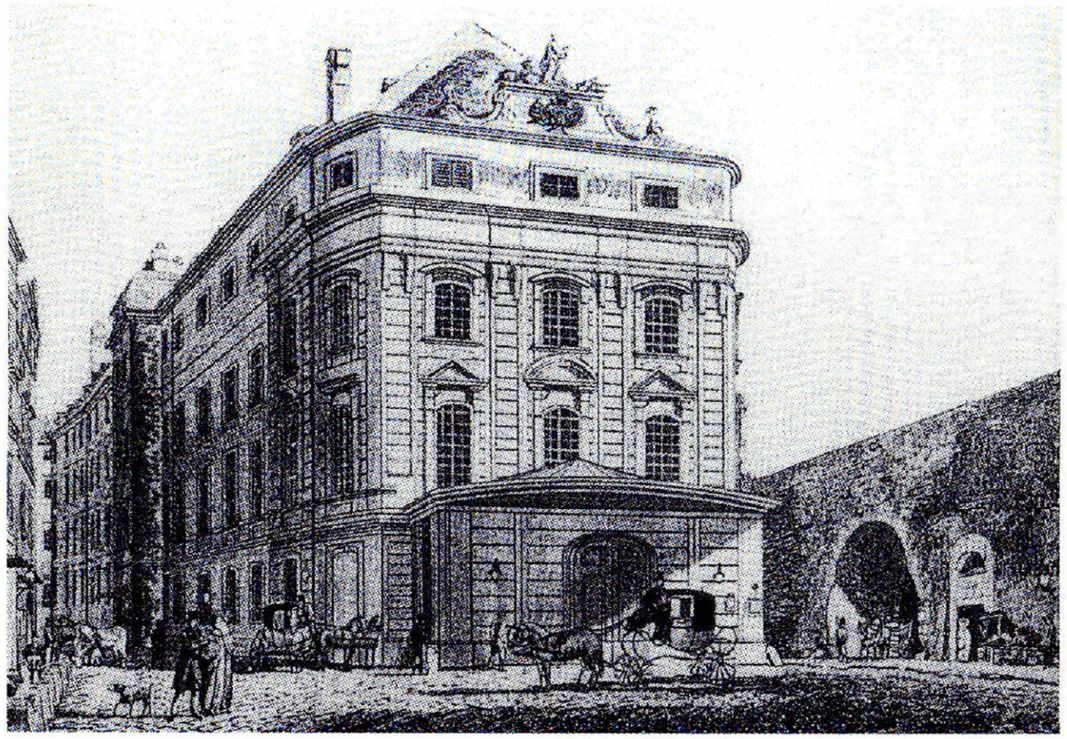
明石　瑠璃子
荒木　真弓
池本　有美
井野　亮子
上村　澄江
内田　彰子
小野　順子
児玉　悦子
児玉　敬子
齋藤　寿子
佐藤　はるひ
白石　奈央
田島　博美
田上　冷子
中村　加代子
中村　良子
濱口　好永
松永　朋子
矢野　淳子
平片　あや
西田　美穂
益田　嘉子
松本　恵
今村　佐恵子
澤田　良子
内藤　邦子
萩本　誠子
原　一美
古庄　里角子
古田　美枝
南　浩子
森　奈緒美
和田　かおり
伊藤　律子
岩坂　美紀子
上野　亮子
大堂　喜三子
緒方　美奈
緒方　節子
菊池　恵美子
菊池　吟子
清川　光乃
倉岡　睦
後藤　哲子
斉藤　恵子
紫垣　静
重村　節子
辻　幸子
鳥居　文子
西牟田　由紀
星崎　文代
益田　留美
宮本　奈都美
浜田　由美子
樋口　弓子
松尾　留美子
丸山　孝子
村上　博子
森　扶美代
⑩北原　雅子
田村　直子
長橋　葵
松本　聖子
幟川　明子
⑫平嶋　かずこ
福間　愛子
山内　洋子
愛甲　訓子
安部　桂子
⑰池田　三佐子
⑭上野　典子
内田　峯子
⑩江崎　恭子
江崎　陽子
⑲大久保　庸子
⑪大隅　由紀子
大谷　葉子
大塚　喜久子
⑩大塚　幸子
岡　追子
⑭小田　順子
小山　智子
⑳小山　チエ
⑩金澤　久美
加茂　千枝子
川崎　節子
川上　喜久子
⑰木原　美智代
⑱清原　幸子
⑳吉良　圭子
㉑草刈　登喜代
⑯久保　久美子
⑩古賀　紀久子
⑩柴田　道子
㉑杉本　弘子
⑫高比良　栄子
⑬高浜　令子
田川　珠恵
⑩竹下　敬子
㉑竹田　綾子
田尻　和代
谷口　紀子
⑮塚本　和子
富崎　聖子
中野　俊子
中村　真由美
⑰中山　八重子
野田　達代
野中　久子
⑮橋口　泰子
⑪濱田　敏子
林　和妙
⑲馬場　美也子
東　真理子
⑪平井　実子
廣田　節子
⑫福嶌　邦子
藤田　美代子
⑬藤原　美智子
牧嶋　喜代子
正木　恒子
⑭松本　美知代
⑭松村　恵美子
⑲松山　典子
三ツ川　多賀子
峯田　道子
宮崎　紀子
宮辺　浩子
宮本　裕子
毛利　トシエ
森　敬子
⑬森　幸子
守永　マサ子
㉑安田　昭子
安田　美喜子
山下　富江
⑩山本　淳子
吉富　ちとせ
⑫松本　津紀雄
⑩青柳　正晴
池田　秀雄
大塚　邦和
㉑神田　一伸
⑩菊池　建朗
幸田　祐一
後藤　雅章
坂田　昭三郎
島田　良代
白石　和男
田尻　淳一郎
⑩田畑　亨
中村　倭文夫
⑲中山　健
永田　進
⑯西本　一成
福池　裕
⑮前川　賢夫
宮井　昭
⑪米村　甲矢夫
⑭笠　肇
窪田　隆穂
河野　清治
栃原　大地
広重　真
田中　孝幸
⑫左座　守

Tenor
〈テノール〉

神崎　雄史郎
佐藤　悦郎
牛島　昭
吉田　幹男
植村　芳樹
置田　純
木梨　興春
関　栄
柘植　治人
原村　憲司
⑫田尻　雅裕
⑭千葉　昌秋
西田　成一
矢上　一英
緒方　満喜子
⑮坂本　峯子
⑰玉井　了子
森田　幸子
井芹　良昭
⑫稲田　正雄
⑪岩崎　正博
上村　哲也
園城　陽二
⑲柏野　勝広
⑰小塚　基夫
坂口　幸男
⑪潮崎　真一
髙倉　正純
友住　修武
西垣　洋
⑩野田　敦彦
日髙　啓輔
⑲間　賢一
藤嶋　浩三
㉑松尾　眞
⑩水本　誠一
⑩宮本　亮
⑪山田　弘二
西口　明弘
江島　正彬

Bass
〈バス〉

泉　博
河上　蘇六
木村　征雄
木庭　正士
徳永　智久
浜田　翔
春田　篤
松川　翔
平井　誠也
山下　真史
峯　清
菊川　英臣
菊池　忠孝
野中　誠二
⑭新垣　盛亨
谷山　俊彦
野口　喬
福池　淳一郎



「第九」の初演が行われたケルントナートーア劇場

※10回以上の参加者を紹介します。（氏名の前の○印の数字が出演回数です）

熊本交響楽団
KUMAMOTO SYMPHONY ORCHESTRA

〈コンサートマスター〉 鶴　和美

〈1stヴァイオリン〉
桂　敦子
北山尚子
佐藤弘美
多賀美紀
田中　唱
田北洋子
続　宏美
⑳鶴　和美
長坂浩子
原　雅子
山口みゆき
柚原三弥子

〈2ndヴァイオリン〉
荒瀬麻里
岡　純子
置田しおり
置田みどり
小柳敦子
汐月哲夫
新川友香子
高木信雄
田上るみ子
龍野珠美
黒葛原契子
黒葛原康子
鳥居俊彦
東　眞知子
松隈法美
本山　洋
鷲山春美

〈ヴィオラ〉
安部和歌葉
荒木拓実
池邊京子
⑳緒方　肇
吉良純平
甲田啓子
⑳黒葛原　潔
山崎崇伸
⑳吉田美智子
鷲山　肇
鷲山法雲

〈チェロ〉
奥野　聡
佐無田　護
槌田博文
永尾和治
永倉照恵
長坂輝喜
野島秀司
Patrick Nowlin
佛淵かつよ
佛淵信夫
本田義信
三浦純子
右田晴久

〈コントラバス〉
岩井宏司
桑原秀哉
國米　稔
坂田英津子
白木信一郎
高木美緒
田上博子

〈フルート〉
大橋みのり
椎原暁子
山口邦子

〈オーボエ〉
石田栄里子
片岡久哉
⑳辰野裕昭
藤田真幸

〈クラリネット〉
浦本由美子
黒木健次
原　敏郎
前野美千代
笠　千帆

〈ファゴット〉
小田穂積
田村聡司
西田伸代
山本義都

〈ホルン〉
奥羽朋子
田中禎子
斎藤恵之
野村　梢

〈トランペット〉
今村隆志
中野崇之
永廣正治

〈トロンボーン〉
梅田雄介
西　亮祐
古澤浩幸

〈パーカッション〉
小野上真樹
⑳白尾友宏
山中美雪

※⑳は20回の出演を表します。

熊本県民第九の会 演奏会記録
※は同時演奏曲

第1回　昭和57年12月28日（火）
指揮／山田　一雄　独唱／新　圭子　木村　宏子　伊豆野　修　高橋　修一
※越天楽（雅楽）……近衛秀麿（編曲）

第2回　昭和58年12月11日（日）
指揮／大友　直人　独唱／高見久美子　岡　ますみ　大野　光彦　柴田　啓介
※楽劇「ニュルンベルグのマイスタージンガー」前奏曲……ワーグナー

第3回　昭和59年12月27日（木）
指揮／山岡　重信　独唱／中沢　桂　木村　宏子　板橋　勝　池田　直樹
※弦楽のためのアダージョ　作品11……バーバー

第4回　昭和60年12月25日（木）
指揮／ﾌﾗﾝﾃｨｼｪｯｸ・ﾜｲﾅｰﾙ　独唱／三縄みどり　妻鳥　純子　伊達　英二　中村　邦男
※序曲「レオノーレ」第3番　ハ長調　作品72a……ベートーヴェン

第5回　昭和61年12月27日（火）
指揮／荒谷　俊治　独唱／津下美奈子　木村　宏子　鈴木　寛一　芳野　康夫
※トッカータとフーガ　ニ短調……バッハ～ストコフスキー

第6回　昭和62年12月26日（土）
指揮／安永武一郎　独唱／中沢　桂　木村　宏子　近藤　伸政　栗林　義信
※「エグモント」序曲　ヘ短調　作品84……ベートーヴェン

第7回　昭和63年12月25日（日）
指揮／安永武一郎　独唱／三縄みどり　木村　宏子　鈴木　寛一　平野　忠彦
※序曲「コリオラン」ハ短調　作品62……ベートーヴェン

第8回　平成元年12月24日（日）
指揮／小松　一彦　独唱／秋山恵美子　木村　宏子　成田　勝美　高橋　啓三
※「プロメテウスの創造物」序曲　作品43……ベートーヴェン

第9回　平成2年12月23日（日）
指揮／籾山　和明　独唱／山田　綾子　木村　宏子　大野　徹也　福島　明也
※「ロオザムンデ」序曲　作品26……シューベルト

第10回　平成3年12月23日（日）
指揮／安永武一郎　独唱／西森　由美　木村　宏子　田中　誠　宮原　昭吾
※「エグモント」序曲　ヘ短調　作品84……ベートーヴェン

第11回　平成5年12月23日（木）
指揮／荒谷　俊治　独唱／河添　富士子　春日　成子　小林　彰英　栗林　義信
※楽劇「ニュルンベルグのマイスタージンガー」前奏曲……ワーグナー

第12回　平成6年12月24日（日）
指揮／金　洪才　独唱／岩永　圭子　妻鳥　純子　饗場　知昭　勝部　太
※「エグモント」序曲　ヘ短調　作品84……ベートーヴェン

第13回　平成7年12月24日（日）
指揮／金　洪才　独唱／西森　由美　妻鳥　純子　大島　博　大島　幾雄
※　モテット“アヴェ・ヴェルム・コルプス”k.618……モーツアルト

第14回　平成8年12月23日（月）
指揮／本名　徹二　独唱／河添富士子　妻鳥　純子　大間知　覚　瀬戸口　浩
※カンタータ第147番よりコラール“主世、人の望みの喜びよ”BWV147…J.S.バッハ

第15回　平成9年12月21日（日）
指揮／金　洪才　独唱／志岐由理子　妻鳥　純子　牧川　修一　小川　裕二
※序曲「コリオラン」ハ短調　作品62……ベートーヴェン

第16回　平成10年12月20日（日）
指揮／井崎　正浩　独唱／佐々木典子　岩森　美里　井ノ上了吏　瀬戸口　浩
※序曲「レオノーレ」第3番　ハ長調　作品72a……ベートーヴェン

第17回　平成11年12月19日（日）
指揮／レオ・クレーマー　独唱／水野　貴子　青山智英子　持木　弘　松本　進
※「エグモント」序曲　ヘ短調　作品84……ベートーヴェン

第18回　平成12年12月23日（土）
指揮／金　洪才　独唱／河添富士子　妻鳥　純子　大間知　覚　大島　幾雄
※歌劇「フィデリオ」序曲　作品72b……ベートーヴェン

第19回　平成13年12月23日（日）
指揮／田代　詞生　独唱／佐々木典子　青山智英子　井ノ上了吏　松本　進
※歌劇「魔弾の射手」序曲……ウェーバー

第20回　平成14年12月22日（日）
指揮／松尾　葉子　独唱／三縄みどり　杉野　麻美　米澤　傑　瀬戸口　浩